

「平成30年度研究成果報告会」  
地域コミュニティの防災力の向上シンポジウムーみんなが〈助かる社会〉の構築をめざしてー

人口減少、超高齢化による担い手の不足や、コミュニティの希薄化が進むなか、どのようにして地域コミュニティの防災力を向上させるかは喫緊の課題です。研究戦略センターでは、平成29年度から30年度にかけて研究調査部において実施した「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～」の研究成果報告会を姫路市内で開催しました。

会場に集まった約200名の参加者を前に、地域の個性や地域住民、行き交う人々の多様性に配慮した地域防災、誰もが「助かる社会」の実現に向けて、活発な議論が交わされました。

【日 時】 令和元年6月3日（月）13:30～16:30

【場 所】 ホテルモントレ姫路 3階ラフェスタ

【参加者】 197名（行政職員（県・市町）、大学、企業、シンクタンク、地域団体、一般県民 等）

【参加費】 無料

【主 催】 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構

【後 援】 兵庫県（西播磨県民局、中播磨県民センター、東播磨県民局、北播磨県民局）、関西広域連合、上郡町

【内 容】

＊基調講演＊

「地域コミュニティの防災力の向上ーみんなが〈助かる社会〉の構築をめざして」

講演者 : 渥美公秀 大阪大学大学院人間科学研究科教授

当機構研究戦略センター 政策コーディネーター

シンポジウムでは、最初に「地域コミュニティの防災力の向上ーみんなが〈助かる社会〉の構築をめざして」をテーマとして、「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～」研究会代表者である渥美公秀大阪大学大学院人間科学研究科教授から講演いただきました。まず、研究会の背景として、阪神・淡路大震災から25年を迎えようとする今、防災の取り組みはかなり進んできてはいるものの、超高齢社会、人間関係の希薄化等でコミュニテ

ィの力が低下してきている状況があり、研究会ではこうした背景を踏まえ、多様な人々ひとりひとりに配慮したインクルーシブな地域防災のあり方について、高齢化の進む兵庫県上郡町赤松地区をモデル地区として検討を重ねてきた経緯について報告がありました。地域防災力を向上させるためには、防災に特化せず、地域おこしや福祉等の取り組みと連動させていくことが重要であり、当事者である地域住民はもとより、行政や専門家等のアドバイザーチームを交えて地域コミュニティの魅力と課題について対話を重ね、取り組みを進めていくことが必要であると述べました。

**\* 基調報告 \***

「赤松地区連合自主防災組織の取り組み」

報告者 : 古正好晴 兵庫県上郡町赤松地区連合自治会長

次に、兵庫県上郡町赤松地区での自主防災の取り組みについて、古正好晴 赤松地区連合自治会長から報告いただきました。戦国武将の赤松円心、また明治政府の礎を築いたとされる大鳥圭介男爵の縁の地である上郡町赤松地区では、豊富な歴史資産を活用したイベントの開催に熱心に取り組むとともに、地域の自主防災についても活性化を図ってきました。そうした中で「地域コミュニティの防災力向上」研究会からの提案を受け、超高齢化社会における自主防災のモデルとして、地域活動の機会を活用した地域外との連携強化や防災意識の向上に取り組むこととなりました。具体的には、毎年 11 月に開催される「白旗城まつり」を防災と絡めた実践的な活動の場とすることを目指して、集落調査や村づくり会議を実施し、交通弱者でもある高齢者や障がい者の参加方法(=避難方法)をはじめ、参加者への昼食の提供(=炊き出し訓練)、仮設トイレの設置等について、ひとつひとつ検討を重ねていった経緯について、古正会長から説明がありました。こうした、村づくりの中で防災の意識を取り入れて地域の防災計画を考える取り組みを経て、「赤松地区防災計画」が策定されるに至りましたが、古正会長はこの防災計画について、今後 2 年ごとに見直していき、その都度見えてくる課題と向き合いながら常に進化形でいくという姿勢で取り組んでいきたい、と述べました。

\*パネルディスカッション\*

「まちづくりに包含される〈助かる社会〉とは」

コーディネーター：矢守克也 京都大学防災研究所教授

人と防災未来センター上級研究員

パネリスト：宮本 匠 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科講師

小林郁雄 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授

人と防災未来センター上級研究員

村井雅清 被災地NGO協働センター顧問

山田壽範 兵庫県上郡町役場住民課副課長

続くパネルディスカッションでは、「助かる」「インクルーシブ（包摂）」「まちづくり」をキーワードに、有識者の皆さんが議論を展開しました。「日常的なまちづくり活動や祭りなどの地域行事は、防災を前面に出して実施されてはいないが、そこに集まり、関わることで人々のつながりが生まれ、結果として防災・減災の面で大きな力を発揮する。」「地域で積極的にまちづくりに取り組んでいても、過疎化・高齢化は止まらず、地域のつながりが弱まっていく状態にある。こうした中、地域を開いて、外から来る他人（来訪者・研究者等）を受け入れて一緒に動くことが、これからの防災やまちづくりには重要になってくる。」「色々な人を包摂する（インクルーシブである）ことは社会としては当たり前のこと。しかし、災害発生時にはまさに一番弱い立場の人たちが犠牲になっていくという現実がある。」「防災の取り組みにうまく乗ることが出来る人・出来ない人を隔てる壁を、少しずつでも崩していく取り組みがインクルーシブな防災への一歩になる。」等の意見が交わされました。